【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年9月1日(2016.9.1)

【公開番号】特開2016-26831(P2016-26831A)
【公開日】平成28年2月18日(2016.2.18)
【年通号数】公開・登録公報2016-011
【出願番号】特願2015-219605(P2015-219605)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３３４
Ａ６３Ｆ　7/02　３０４Ｄ
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成28年7月13日(2016.7.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の発光部材と、
前記複数の発光部材が複数の発光部材群に区分されるとともに、各発光部材群に含まれる発光部材に電気的に接続されるコモン線を介して点灯パターンを制御する点灯制御手段と、
を備え、
前記コモン線として、前記複数の発光部材群のうちの一つである第一発光部材群に含まれる複数の発光部材に接続された第一コモン線と、前記複数の発光部材群のうちの一つである第二発光部材群に含まれる複数の発光部材に接続された第二コモン線と、が設けられ、
遊技に関する第一遊技情報が、前記第一発光部材群に含まれる発光部材の少なくとも一部と、前記第二発光部材群に含まれる発光部材の少なくとも一部と、を含む複数の発光部材の点灯パターンによって報知され、
前記第一遊技情報と異なる第二遊技情報が、前記第一発光部材群および前記第二発光部材群の少なくともいずれか一方に含まれる発光部材を含む複数の発光部材の点灯パターンによって報知されることを特徴とする遊技機。
【請求項２】
遊技球の入賞が当否判定を行う契機となる一または複数の入賞口を備え、
前記一または複数の入賞口のうちの第一入賞口に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容である第一当否判定結果、
前記第一入賞口に遊技球が入賞したことを契機としてなされる当否判定のうち、保留されているものの数である第一保留数、
前記一または複数の入賞口のうちの前記第一入賞口とは異なる第二入賞口に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容である第二当否判定結果、
および、前記第二入賞口に遊技球が入賞したことを契機としてなされる当否判定のうち、保留されているものの数である第二保留数
のうちのいずれか一つが前記第一遊技情報として設定されるとともに、別の一つが前記第

二遊技情報として設定されていることを特徴とする請求項１に記載の遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記課題を解決するためになされた請求項１の発明にかかる遊技機は、複数の発光部材と、前記複数の発光部材が複数の発光部材群に区分されるとともに、各発光部材群に含まれる発光部材に電気的に接続されるコモン線を介して点灯パターンを制御する点灯制御手段と、を備え、前記コモン線として、前記複数の発光部材群のうちの一つである第一発光部材群に含まれる複数の発光部材に接続された第一コモン線と、前記複数の発光部材群のうちの一つである第二発光部材群に含まれる複数の発光部材に接続された第二コモン線と、が設けられ、遊技に関する第一遊技情報が、前記第一発光部材群に含まれる発光部材の少なくとも一部と、前記第二発光部材群に含まれる発光部材の少なくとも一部と、を含む複数の発光部材の点灯パターンによって報知され、前記第一遊技情報と異なる第二遊技情報が、前記第一発光部材群および前記第二発光部材群の少なくともいずれか一方に含まれる発光部材を含む複数の発光部材の点灯パターンによって報知されることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の遊技機において、遊技球の入賞が当否判定を行う契機となる一または複数の入賞口を備え、前記一または複数の入賞口のうちの第一入賞口に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容である第一当否判定結果、前記第一入賞口に遊技球が入賞したことを契機としてなされる当否判定のうち、保留されているものの数である第一保留数、前記一または複数の入賞口のうちの前記第一入賞口とは異なる第二入賞口に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容である第二当否判定結果、および、前記第二入賞口に遊技球が入賞したことを契機としてなされる当否判定のうち、保留されているものの数である第二保留数のうちのいずれか一つが前記第一遊技情報として設定されるとともに、別の一つが前記第二遊技情報として設定されていることを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
本発明によれば、遊技に関するある遊技情報が、あるコモン線（第一コモン線）に接続された発光部材と、それとは異なるコモン線（第二コモン線）に接続された発光部材を含む複数の発光部材の点灯パターンによって報知されることになる。つまり、当該ある遊技情報を報知する点灯パターンを発現するための複数の点灯部材は、全て同時に点灯するものではないから、点灯した瞬間を撮像すること等による点灯パターンの解読を困難にする

ことが可能である。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
特に、ある入賞口（第一入賞口）に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容を報知する点灯パターンの制御に適用されるものであれば、点灯パターンの解読が、遊技状況が有利になるようにする行為に利用されてしまうことを抑制することが可能である。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
また、ある入賞口（第一入賞口）とは別の入賞口（第二入賞口）に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容や、保留数を報知するための発光部材が設けられることを利用し、一のコモン線に接続された複数の発光部材のみによってある入賞口（第一入賞口）に遊技球が入賞したことを契機とする当否判定結果の内容が報知されることがないようにすれば、従来よりも発光部材やコモン線が増加してしまうことを防止することが可能である。